



湘南わかばグループ健康ニュース No.237 2021年1・2月号

わかば

特定医療法人 湘南中央病院・湘南わかば苑・わかば訪問看護ステーション
社団法人 若林会 若林会居宅介護支援事業所・藤沢市明治いきいきサポートセンター
(地域包括支援センター)

発行者／長 田 博 昭 編集責任者／呉 鐵 仁
〒251-0056 藤沢市羽鳥 1-3-43 Tel0466(36)8151 Fax0466(35)2886
URL <https://www.swg.or.jp> E-mail wakaba@swg.or.jp

【理 念】

地域の人々とともに歩み
健康を守り良質な医療と介護を
提供します。

【基本方針】

いつでも受けられる医療と介護
地域に出る医療と介護
包括的な医療と介護
納得づくりの医療と介護



「ときのわすれもの」～住むまちの風景～

タイトル『湘南高校クスノキ』



大庭出身の耕余塾で学んだ金子角之助が、1912年藤沢の町長になり県立中学誘致をすすめ、1921年鶴沼神明に神奈川県で6番目の中学が開校されました。校名は「藤沢中学」が考えられていましたが、1916年に藤嶺藤沢中学が開校されており、町長提案の「湘南中学」になったと言われています。1948年神奈川県立湘南高等学校と改称、2021年100周年を迎えます。1933年校門両脇に植えられたクスノキは、藤沢南部では貴重な大木に育ちました。今回の作品は樹下で体育祭準備の仮装行列の練習をしている学生たちの様子です。

(作者 ひろた らいふ／企画 宮原 青子)

新年あけましておめでとうございます

主 な 記 事

新年の主張「コロナ対策の盲点」	…………… 湘南中央病院名誉院長・湘南病院協会会長	今 井 重 信 (2)
地域 ご挨拶	…………… 介護老人保健施設 湘南わかば苑 施設長	佐 貫 恵 吉 (4)
一代記 或る外科医の一代記「高等学校の頃⑥」	…………… 理事長	長 田 博 昭 (5)
エッセイ「お初」	……………	宮 原 昭 夫 (6)
地域 第19回「干支の牛が描かれた江の島の浮世絵」	…………… 藤澤浮世絵館	細 井 守 (7)
こえ 投書箱から	…………… 統括事務部長	伊 藤 稔 (7)

「コロナ対策の盲点」

1. 「自宅療養」こそが感染拡大の元凶
2. 「コロナつぶし」なしには経済まわらず
3. 重症者だけが「医療崩壊」のもとではない



湘南中央病院名誉院長 湘南病院協会会長 **今井 重信**

新年あけまして
おめでとございませう

とは言えコロナ禍のため、落ち着かぬお正月をお迎えのことと思います。

そこで今回は「コロナ対策の盲点」と題して、いくつかについて書くことにいたしました。

問題は無症候陽性者の「自宅療養」

次頁の表1を見てください。神奈川県が作成した昨年2月から11月末までの新規感染者の推移をグラフ化したものです。通常のグラフは日単位のため、曜日によってアップダウンが激しく感染の推移が掴みにくいのですが、この県作成のものは週単位で補正しているため、感染状況の大きな流れを視覚化した優れたものです。

これを見ると4月からの第1波、7月からの第2波、そして11月からの第3波が一目瞭然確認でき、また区別できます。

そこで私が注目するのは、第1波と第2波との明らかな違いです。

第1波は5月末にはいったん収束しましたが、第2波は8月中旬のピーク後「アウト」するかと思ったら「山脈状に」高止まりし、遂には11月の第3波に繋がってしまったのです。この違いはどこから来たのでしょうか。

結論的に言えば、「感染者隔離」の違い、それも軽症者、特に無症候感染者の隔離の相違だと私は考えています。第1波では感染者の多くが入院か宿泊療養施設入所で、「軽症者・無症候者」の自宅療養は比較的少なかったと記憶しています。すでに無症候者でも感染力があることがわかっていたからです。

ところが第2波では「自宅療養」が公認されてしまいました。若者が大多数を占めたという特殊事情があったにしろ、「自宅及び宿泊療養施設」と並列化されることにより、現在では「自宅療養」は全国的には50〜70%に達しつつあります。第2波の「高止まり」はそのためではないでしょうか。「自宅療養」だとしても外出や同居者との接触は避けられません。家族感染や市中感染はなくならないのです。

今からでもいい、「宿泊療養施設」を全国的に多数設置し「自宅療養」を例外的なものにすべきです。

「コロナつぶし」の不徹底

この点については年末の「Go To」問題についての政府の迷走ぶりで、国民全体が実感したので多くは触れません。

つまるところ中途半端なコロナ対策では経済は決してまわらない、逆に徹底した「コロナつぶし」こそ、経済に展望を開くということなのです。

「医療崩壊」の多面的様相

重症患者の増加によって「医療崩壊」の危機がクローズアップされています。

事実、重症及び中等症患者を収容している「高度病院・重点病院」の疲弊困窮は、医療崩壊へ直結する重大な局面に差し掛かっており、国・県に最大限の支援を要望します。

一方「医療崩壊」は重症患者収容問題だけに留まりません。二点につき指摘します。

新規感染者の推移（人口10万人当たり・週合計）（モニタリング指標④）

（表1）



神奈川県

2020年11月30日現在



※各日における週合計の感染者数を人口10万人当りに換算

※県のモニタリング指標におけるステージⅢ移行の基準値として、15人（／週）以上であることを設定している。

※出典元：神奈川県健康医療局医療危機対策本部室

一つはコロナ以外の医療体制の崩壊です。それはコロナ患者の入院を引き受けている病院にまづしかも顕著に発生します。それが、それだけにどまらず地域全体の病院や診療所に広がっていきます。コロナ収容病院が通常扱っていた一般医療や救急医療等を他の医療機関が肩代わりする必要がありますからです。

もう一つはコロナ収容病院を筆頭とした、地域の病院・診療所の「経営の崩壊」です。すでに第1波以降9月までの年度前半期において、ほとんどの病院・診療所は赤字経営に陥っています。しかもコロナ患者入院を扱っていない医療機関への経営支援は、ほとんどありません。

このようなコロナ最盛期における目を覆うような医療危機を体験するに至って、どうしても言うておくべきことがあります。それはこのコロナに遭遇するずっと以前から、国は保健や医療体制について充実させる方向ではなく、縮小・削減・効率化のベクトルを推し進めてきたことです。

例えば、保健所は設置数的にも人員的にも縮小させてきました。また400以上の公立・

公的病院の削減・統合が現在も進行しています。病院の消費税に関わる損税という経営圧迫も解消しようとしてくれません。

これら医療体制へ積年のマインス・ベクトルの総決算が、今、コロナとの対決を困難なものにし「医療崩壊問題」として噴き出しているのではないのでしょうか。

マスクの盲点 マウスシールド

最後に「マスクの盲点」です。図1を見てください。

最近右端の絵のような「マウスシールド」をよく見かけます。政治家、芸能人、解説者などに多いようですが、図にあるように飛沫を防ぐ効果はほとんどありません。%の数字は少ないほど効果が低く、多いほど効果がないのです。

マスクやフェイスシールドの効果（スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果）（図1）

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド
		不織布	布マスク	ウレタン		
吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50%*	80%	90%*
吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65%*	60-70%*	小さな飛沫に対しては効果なし（エアロゾルは防げない）	

（出典元：全音楽譜出版社）

※ 豊橋技術科学大学による実験値

やはり不織布マスクが最良のようですね。

ただこのマウスシールドが最初ろろあ者のために作られたことは私も知っています。でもテレビで実際に使っているのを見ると、とてもそんなやさしい配慮があるとは思えません。

ご挨拶



介護老人保健施設

湘南わかば苑

施設長 佐貫 恵吉



私は宮下先生の後任として6月から施設長に就任しました。今年はちょうど介護保険法が施行され、湘南わかば苑が設立されて20年の節目にあたります。この20年の間にも高齢化が一層進行し、老健の重要性もますます高まる中で、その重責に身が引き締まる思いです。

施設長の職に就いて半年が経過しました。この半年は老健の一般業務だけでなく、いかにして新型コロナウイルス感染症から施設を守るのか、これが頭から離れることはありませんでした。ご承知のようにコロナ禍は鎮まるどころかいつ感染爆発を起こしてもおかしくない状態にあります。4月に始まる大型連休期間に緊急事態宣言が発令され、「接触削減」が呼びかけられました。このときに有名なカミュの代表作『ペスト』を読み直しました。そこに忘れられない一節があります。要点を紹介しましょう。封鎖が長引いた時の危険な結果について警鐘を鳴らしている文章です。主人公は観察者ですが、登場人物の医師リウーに語らせています。

「人々がみずから陥るに任せている投げやりな態度、つまり、絶対に不可欠なものではないような動作—しかも常に力にあまることのように思われていた—そういう動作を一切避けようとする傾向になり、次第に頻繁に自身が規定した衛生規則すらをなおざりにするようになっていく。時々なんの感染予防の用意もせずに患者のもとに駆けつけたり、あるいは突然患者の往診を告げられたりするうちに、するまえから疲れ果ててしまう様な気がするわけだ。そうしてペストとの戦いそのものが、最もペストに冒されやすくしてしまうわけだった。そのころには結局僥倖にかけていたことになり、奇禍と背中合わせの危険な状態になってしまった。」

慣れて気が緩む危険な時期です。私たちは医療・施設スタッフとして、自分たちで考えた手順や規則を誠実に実行する、これ以外にパンデミックを克服する方法はありません。ワクチン接種が普及してもなおしばらくの間は続けることになります。マスク着用、手指消毒、あるいは人同士の密着を避ける、というのは「接触感染」という伝播形式をとる病原体の感染防御の基本になります。

老健の使命は、安全に気を配りながら、利用される方々の生活機能の維持・向上を目指し、これらを総合的に援助することにあります。一般的に言われるこの使命が、今ほど緊張を持って実行され、結果で試されるときはありません。

介護老人保健施設 湘南わかば苑



一緒に働く仲間を募集しています

募集職種：介護スタッフ（通所）

資格・経験不問（初任者研修・ヘルパー以上尚可）

※無資格者は、資格取得支援制度あり

■非常勤（月～金 週2～3日程度）

① 8:15～12:00

② 8:15～16:45

詳しくは、HP又は直接下記へお問い合わせください

<https://www.swg.or.jp/recruit/> →

連絡先：☎ 0466-89-0551（湘南わかば苑 採用担当）



一代記

或る外科医の一代記 高等学校の頃⑥

理事長 長田 博昭

高等学校3年生の暑い夏休み中の事、受験勉強で睡眠不足から日中眠気に襲われ、母に2時間したら起こしてと頼んで自室で寝ていた。2時間が経った頃、緊張からか浅い眠りでうとうとしていて、入って来る母の白いワンピース姿がボーっと目に入った。母はこちらを向いて起きなさいと言いかけた様だが、クルっと向きを変え、と壁際にあったレコードプレーヤーに手を伸ばし、置いてあったレコードを掛けた。出てゆく母の後ろ姿と共に部屋に鳴り渡ったのはアルフレッド・ハウゼン演ずるコンチネンタルタンゴ“Blauer Himmel(碧空)”。目が覚めた。今も目に浮かぶ母のあの姿、あの仕草、懐かしいなあ! 「四当五落」、1日5時間寝ているようでは合格できず、せいぜい4時間までよと言う昭和35年の一コマであったが、母のしゃれっ気の極みと、忘れられない。

学年の半分は家庭科の実習が終わると後半の音楽となる。しかし、この頃になると授業をサボる事に必要と関心とが生じ、数名の仲間と音楽をサボって家庭科実習室の窓の外に屯し、窓下から入れ替わった室内の連中に材料代を渡して人数分を多く作ってもらい、受験勉強の傍ら昼に窓から飯を下ろしてもらって食った。しばらくして音楽の先生からこっぴどく叱られた。その女の先生は音大出の格調高い人であった。余程悔しく感じられたのであろう。先生の涙に、サボりは続行できなくなった。(注: ああ、又しても女性に弱

い欠点が・・・)

この頃、改めて読んだのがアルセーヌ・ルパン全集の1巻、「奇岩城」であった。世界名作全集で繰り返し読んでいたのだが、是非本格的翻訳で読もうと文庫本を買ったのである。いや面白い事面白い事、心は又してもフランスのノルマンディに翔んだ。怪盗ルパンのユーモアと余裕、女性に対する優しさ、それでいて国家を相手に他人を傷つけずに強盗をやる、そのフランス的精神を齧った思いがした。ドイツ人にも日本人にも欠けている精神と思えた。大衆小説でもこれだけ外国人の青年を楽しませるなら結構ではないか。青年探偵がルパンを追い詰め、ルーアンを経てノルマンディはエトルタの崖の上に身を乗り出し、石灰岩でできた奇岩城を目にする下り、今も生き生きと覚えている。



後年、パリで学会があった時、電車を乗り継いでエトルタを訪れようと時刻表と睨めっこしたが、連れていた家内の体調不良で流れたのは残念であった。この書も座右に鎮座している。

成績が少し下がった。教務主任の理科の先生にある日廊下で呼び止められた。「長田、

君の成績では只一校の受験は危ないよ、どこか他にも受けなさい。」内心反発したが、新設学校の事情も勘案し妥協した。

3年生の冬、学校の単位は総て取得、1月からの3学期は通学の必要がなかった。そこで東京に出て下宿する事にした。12月のある日上京、旧東海道線の特急で6、7時間は掛かった。富士山を眺め、おお、箱根を越えとるな一、と感慨に耽った車窓を思い出す。新幹線はまだ無かった。

渋谷区・駒場の下宿に入った。気の良い叔母さんが食事を作ってくれた。夕食は同宿の慶大1年生の男性と3人で摂った。叔母さんがタバコを吸うので、時に「長田さん、マッチを取って!」と言われた。マッチを手渡すと、「長田さん、鑿と言えば槌だよ。」と諭されたものだ。気を利かせて一緒に横にある灰皿も渡すものだよという意味であった。

私にとって第一外国語は東京弁である。東京に出た第1日目から今の「物まね東京弁」を使い始めた。これには説明が必要であろう。母方伯母の一人が東京は山の手の出身であった。この伯母は終生山の手東京弁で、その息子たる件の従弟が、大阪で生まれ育ったのに亦完全な東京弁であった。私は小学校の頃、この従弟と遊ぶことが多かったので、東京弁のアクセントは耳に良く覚えていた。それで、下宿に入った瞬間から物まね東京弁を使い始めたのである。(注: それが今に及んでいる。)

続く...

お初

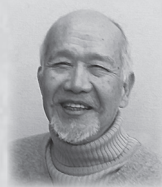
私が子供の頃は、誰かが下ろし立ての服を着て来ると、みんなは一斉に「おハツ！」と叫びながら思いっきり背中をブツ叩いたものでした。今は服の新調なんて珍しいことでもないので、こんなことをやっていたら背中よりも手のほうが痛くなってしまいそうですね。私の子供時代は、戦前、戦中、戦後の欠乏時代で新しい服が珍しかったので、あれは、お古ばかり着せられていた子供たちの羨望の表現だったのかも知れません。当時は、「産めよ増やせよ」という標語が叫ばれていたせいか子沢山の家が多く、私なども兄のお古ばかり着せられていたので、なかなか背中をブツ叩かれるチャンスはありませんでした。

「七面鳥」という渾名がありました。中学の若い男性音楽教師が毎日服装を変えて登校するので、生徒たちも秘かにこの渾名で呼んでいました。きっと大人たちの真似をしていたのでしょう。これは当時、差別語の一種で、特に男性は顰蹙を買いました。今思えば、毎日違う服を着て来るのが、どうしてそんなに怪しからぬ事だったのか理解に苦しむところです。昨今なんかは、そこらじゅう七面鳥だらけですからね。

窮乏時代には、新調といってもいろいろ問題がありました。服という物は……特に子供の服とは、買う物ではなく、手作りするものだと言われていたような気がします。当時適当な生地は中々手に入らなかったもので、親がどこで調達して来たのか、ゴワゴワのキャンパス地

話の道草

宮原 昭夫



で仕立てられた手縫いのズボンを穿かされたことがありました。縫い糸も安物だったのでしょうか、生地の高さに負けて、暫くしたら縫い目が一斉に千切れ、穿いている最中にズボンが真ん中から真っ二つに割れてしまい、たいへん恥ずかしい思いをしました。

子供の頃のお正月は、元旦の朝起きてみると、枕元にマッサラな下着と足袋と下駄が置いてあるのが恒例でした。もっと昔は上着の上下も新調だったのかも知れませんが、物心ついた頃には日中戦争が酷で衣料事情も逼迫していたせいか、覚えて居るのは下着だけです。なんで枕元に下駄か、と訊かれると困りますが、新調出来るのがそんな物しか無かったのでしょう。当時は靴というものは、いわば「冠婚葬祭用」で、下駄は日常の必須アイテムでした。歯が磨り減って無くなり、上面が煎餅のように薄くなるまで使い込み、何かの拍子にパカッと縦に割れるのが大抵の下駄の末路でした。

やがてその下駄まで原料不足となり、多分何処かの廃材を利用したのでしょうか、親が手に入れてきた新品の下駄が、ものすごく重たくて、それを履くと思うように走れないので往生したものでした。その分だけ固い材質で、いっかな磨り減らず、何時まで経っても原形のまま下駄箱に君臨していました。下駄というものはどんどん磨り減る

くらい柔らかくて軽い方がいいのだと、つくづく悟ったものでした。欠乏の時代にはそれなりに珍奇な体験に事欠きません。

そんな時代に新品にお目にかかるチャンスは、お正月と、それから学校入学時くらいしかありませんでしたが、昔も今も、小学校入学時にはランドセル、という伝統は、なぜか営々と続いています。でも中学生になると、戦前の、あのブック製の肩掛け鞆、という常番は、戦後の新制中学にも新制高校にも継承されませんでしたね。

当時の小学生は、早くランドセルでなく、あの幅広の肩帯も含めて白い、ブックの鞆を、斜めに肩に掛けてみたいと憧れたものでした。

黒の学生帽をペシャンコに潰してアミダに被り、学生服のセルロイドの襟のホックを外し、肩掛け帯を伸ばして白鞆をお尻の下で揺らし、朴歯の下駄を踏み鳴らすのが戦前の「トッポイ」中学生のステロタイプでしたが、あの「トッポイ」スタイルも、実は当時の小学生にとっては、結構憧れの的だったのです……

尤も、実際に私が中学生になる頃には、戦争も末期、本土決戦が叫ばれている時期だったので、中学生も、学生服よりも当時「国民服」と呼ばれていたカーキ色の服に、脚には巻きゲートルという、陸軍の兵隊に似た服装のほうが多くて、「トッポイ」服装なんて論外でしたが。



図1 葛飾北斎「東海道五十三次 七 藤沢」

2021年（令和三年）は丑年です。干支の動物「牛」は、藤沢に関係する浮世絵の中で見ると、江の島遊覧（観光）の象徴的な動物だったようです。

図1は葛飾北斎が描いた東海道五十三次の藤沢です。江の島を望む海岸を牧童が牛を連れていきます。この牛は、参詣



図2 歌川広重「相州江のしま詣の図 七里か浜真景」



図3 歌川国貞（三代豊国）・三代歌川国政「題名不詳（江の島詣牛乗り美人と若衆）」



客が海岸を遊覧するためのもので、実際に片瀬―鎌倉間で遊覧が行われていたことがわかっていきます。海岸沿いの村々には、そのための牛も飼われていたようです。

図2は、歌川広重の描いた江の島参詣のひとコマ。女性三人にそれぞれ子供の女性が付き添った一行のようです。左端の女性は駕籠に乗り、ちよつと止まって駕籠かきが汗をぬぐっているところ。真ん中

は子どもが貝拾いをして、供の女性が笠に集めています。右端には実際に女性客が牛に乗っている姿が描かれています。牛を引いているのは北斎の画と同じく牧童です。

◆ アクセス ◆

入館料無料

JR 辻堂駅
JR「辻堂」駅東口改札北口出口から徒歩5分
※藤沢浮世絵館専用駐車場はございません

藤沢市 藤沢浮世絵館
FUJISAWA UKIYO-E MUSEUM

《市制施行80年記念》藤沢トラフィック
浮世絵の道から鉄道と道路の記憶
会期：2020年12月22日（火）～2021年2月14日（日）

開館時間 10:00～19:00
休館日 月曜日
※月曜日が祝日の場合は翌平日が休館
年末年始（12月29日～1月3日）
※その他、展示換えの為の休館日あり

TEL：0466-33-0111
藤沢市辻堂神台 2-2-2 ココテラス湘南7階
<http://www.fujisawa-ukiyoekan.net/>

●患者さんよりご意見をいただきました。

（1）ネームプレートが裏返し
の職員がいる。わざわざ「失礼
ですがお名前は？」と聞くのも
煩わしい。きちんと見えるよう
につけて下さい。というご意見
です。

この度は不快な思いをさせて
しまい、申し訳ございませんで
した。ネームプレートについて
は患者さんから見える
ようにつけることを再
度指導してまいります。

投書箱から

（2）インフルエンザの
予約（電話）について、
湘南中央病院に長くか
かっている人を優先的に
電話予約しないで予防接
種を受けることは出来ないの
でしょうか。というご意見です。

当院では、ご来院される方々
の密を避けるという観点と、接
種を希望される方々に平等に受
けていただけるよう予約制とさ
せていただきました。

ご面倒をおかけいたします
が、何卒ご理解くださいますよ
うお願い申し上げます。

貴重なご意見ありがとうございます。

統括事務部長 伊藤 稔

発熱外来のご案内 予約制

発熱、咳、倦怠感などの症状がある患者さんは、屋外に設置しました「発熱外来」で診察を行います。

予約・お問い合わせ→ ☎ 0570-003252

詳細は、院内の掲示とHPでご確認ください→

<https://www.swg.or.jp/>



◆ 1月の外来診療担当表 ◆

一般外来

2021.1.1 現在

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内 科	午前	村川 一般	岡 一般 神経内科	新城 一般	岡 一般 神経内科	村川 一般	岡 第1・3・5 新城 第2・4
		岡 一般 神経内科	小川 一般 循環器	岡田 一般 循環器	永渕 一般	新城 一般	永渕 第1・3・5 岡田 第2・4
		小川 一般 循環器	-	-	相澤 (予約)	相澤 (予約)	相澤 第2 (予約)
	午後	奥脇(裕) 一般 消化器	永渕 一般	-	新城 一般	小川 一般 循環器	-
		岡田 一般 循環器	-	-	-	相澤 第1・3・5 (予約)	-
外 科	午前	呉	池田(清)	呉	(輪番制)	松崎	松崎
	午後	松崎 一般・肛門	-	-	呉	池田(清)	
整 形 外 科	午前	横山		横山			
		池田(全) 一部予約	庭山	池田(全) 一部予約	芹ヶ野	中島	芹ヶ野
		今井	今井	山本	今井	宇都	宇都
	午後	芹ヶ野	庭山	-	池田(全) 一部予約	今井	-
		-	宇都	-	横山	-	-
泌 尿 器 科	午前	多田	多田	多田	多田	多田	多田 (安井)
	午後	-	多田	-	-	-	-
夕 方 診 療	午後	-	呉 4:30~7:00	-	-	-	-

※医師の都合等により休診・代診となる場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内分泌 (糖尿病)	午前 午後		酒井 (午前) 予約		酒井 (午前) 予約		酒井 (午前) 予約 (第3・4)
呼吸器 内科	午前	福崎 予約					
肛門 外科	午後	松崎					
胸部 化学療法 外来	午前		長田 予約				
皮膚科	午前 午後					宮部	
心療 内科	午前				三吉 予約		
神経 内科	午前 午後					松川 予約	
リハ ビリ科	午後	馬渕 予約					
リウマ チ科	午前						永渕(泰) 予約
緩和 ケア 内科	午前 午後	福崎 予約 (午前)		片町 予約 (午後)		片町 予約 (午後)	
禁煙 外来	午後	長田 予約	長田 予約		長田 予約	長田 予約	長田 予約 (応相談) (午前)

外来診療 午前 8:30 ~ 11:30 ※再診受付 午前 8:00 ~
受付時間 午後 2:30 ~ 4:30

休 診 水曜午後、土曜午後、日曜日・祝日

湘南大庭・西部団地 / 駒寄地域
無料循環バス運行中!



ルート・時刻表は、
当院HPでご確認ください

<https://www.swg.or.jp/information/access/>



2月に起きたダイヤモンドプリンセス号事件を皮切りに新型コロナウイルス感染症拡大のため暗いニュースばかりを目にすることの多い1年でしたが、12月にうれいニュースが飛び込んできました。6年前に打ち上げられた小惑星探査機はやぶさ2が予定通り小惑星リュウグウのサンプル採取に成功し、地球に持ち帰ることに成功したのです! 初代はやぶさが様々なトラブルを克服して小惑星イトカワのサンプルリターンに成功した話は映画にもなりましたのでご覧になった方も多いと思います。

初代の時はサンプルの採取装置に不具合が発生したため、持ち帰ることにできたサンプルは極微量だったようですが、今回のはやぶさ2では期待していた以上の岩石や気体が採取できたようです。リュウグウは比較的地球に近い小惑星だそうですが、それでもはやぶさ2がリュウグウに到達した時点では地球からの距離は約3億キロ!! リュウグウの大きささは直径約900mだそうです。3億キロ離れた所に900mの大きさのものがたどり着くというまさに驚きのミッションです。JAXAの方々の苦勞の賜物であると同時に人類の叡智のすばらしさを感じることのできるニュースでした。

(医師 呉 鐵仁)

編/集/後/記

湘南中央病院
今月のギャラリー (2021年1~2月)

有道敏明 『富士山』 写真展



富士山を主体にした風景写真を撮り続けて20数年、満83歳になりました。湘南中央病院透析センターで12年前から毎月入替展示してきた作品の中から、及び私の所属する日本写真家連盟の大判写真展出品作品を含め約20点を展示しました。ご高覧ください。

連絡先 〒251-0057 藤沢市城南2-4-14 有道敏明
TEL/FAX 0466-36-2070
E-mail arimichi@alto.ocn.ne.jp